

消防指令事務共同運用

- ▶ 平成26年1月から
- ・高岡市
- ・氷見市
- ・砺波地域消防組合



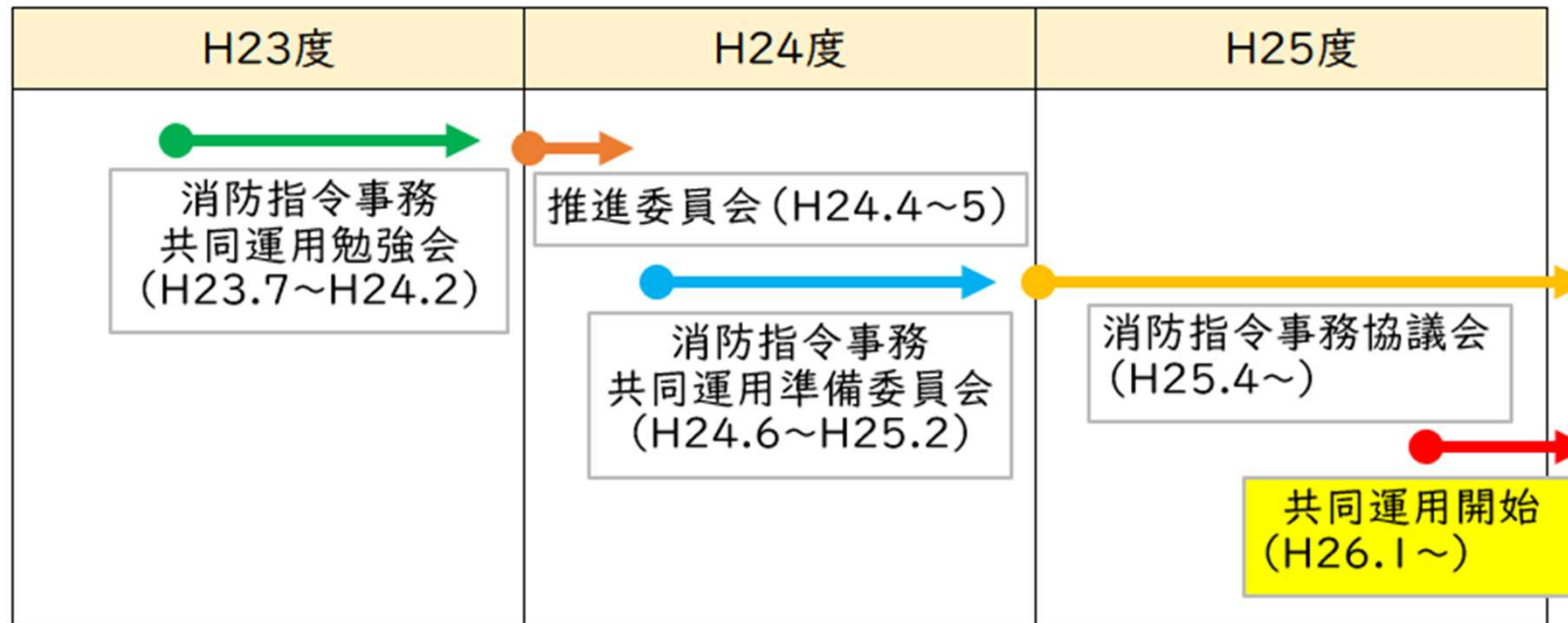
消防広域化

- ▶ 令和3年4月から
- ・高岡市
- ・氷見市



高岡市消防本部 (管内人口: 213,969人)

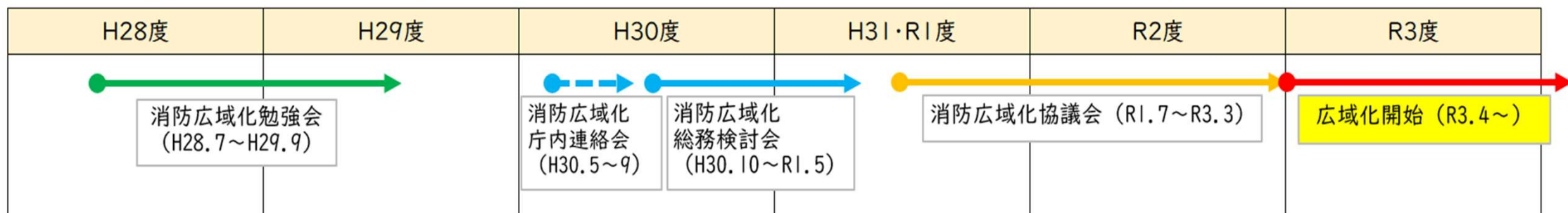
砺波地域消防組合消防本部 (管内人口: 126,553人)



<効果>

- ▶共同運用開始に合わせて、構成団体間の応援体制強化
 - ・救急、支援出動で直近指令、ゼロ隊運用。火災、救助出動も強化
 - ・現場到着所要時間の短縮 (H26度の3救急出動の現場到着所要時間は、3本部平均で約20秒短縮)
- ▶事務共同化に伴う人員の効率化
- ▶共同運用後の維持管理費・システム部分改修事業費の低廉化
- ▶消防救急無線システムのデジタル化を共同で整備、事業費の低廉化

消防広域化（高岡市・氷見市）



<効果>

- ▶氷見市内出張所新設により、両市境付近の救急出動の現場到着時間が短縮
 新出張所救急隊が直近となった高岡市の地区は広域化前と比べて平均約1分30秒短縮、氷見市の地区は平均約2分30秒短縮
- ▶消防本部全体の部隊数の増、部隊運用の一元化により、初動態勢が強化
 - ・氷見市における火災出動時の初動出動隊数：広域前3隊、広域後5隊
 - ・部隊数増により災害重複時であっても、出動に必要な車両を確保
- ▶広域化前に両市が保有していた消防資機材や各種資格を持った職員を、広域化後一元的に管理。より迅速で効果的な消防活動が可能となった。

<指令事務共同運用>

- ▶ 砺波地域消防組合からの共同運用の申し入れに対して、周辺の他の消防本部に声掛け
→ 氷見市が参加
- ▶ 指令センター共同運用と併せて検討
 - ・ 直近指令、ゼロ隊運用
直近選別等の機能を最大限に活用し、住民サービスの向上・充実を図るため、火災のみならず、救急、救助に対しても、管轄を超えた相互乗り入れを行うことを提案
 - ・ 消防救急デジタル無線設備の共同整備
 - ・ 救急プロトコールの統一化
両医療圏のプロトコールの統一。統一後、合同で救急救命士の研修等を行うなど、連携の強化に取り組んでいる。

<広域化>

- ▶ 円滑に広域化を進めるため、広域開始の1年前から両市の人事交流を実施

連携・協力からの広域化は、最初から広域化することと比べて、事務担当の負担、職員の広域化に伴う変化への対応と言った点でメリットがあった。